

三好和彦議員



- (議案質疑)
- 1 休日夜間急患センター事業継続支援金について (一般質問)
  - 2 視覚スクリーニング検査について
  - 3 地域猫活動について

子どもたちの視力を守る  
更なる検査の徹底を！

問

3歳児健診において、令和元年度から、3歳2か月児を対象とした視覚スクリーニング検査機器による視力検査を行っているが、検査結果はどうか。

また、人間の視力は6歳までに形成されることから、検査に取りこぼしのないよう、更なる周知や検査対象の拡大に取り組む考えはないのか。

答

自宅での視力検査と比較して、精度の高い検査ができていますと考えており、令和元年度は、視覚スクリーニング検査で40名が要精密検査となり、その後、32名が視力異常と診断された。

検査対象の拡大については、3歳未満ではスクリーニングの精度が不確実なため、低年齢児に拡大する予定はない。また、令和2年度からはより適切な検査に向け、検査対象時期を日本小児眼科学会が提言する3歳6か月に変更している。今後は、更なる周知に向け、1歳6か月健診時に、視力検査の助けとなる参照動画の周知について検討したい。



視覚スクリーニング検査の様子

西条自民クラブ

児玉千春議員



- (一般質問)
- 1 第2期目に向けた市長の思いについて

第1期目の総括を！

問

玉井市長は、4年前「ワクワク度日本一のまち西条」の実現を公約の柱に掲げて市長就任後、人口減少・少子高齢化の進展、自然災害の増加と激甚化など、多くの障壁に対し、常に市民ファーストの目線で市政運営に取り組んできた。その結果全国的にも注目される自治体として高い評価を受け始めており、これからの西条市にとって明るい光が差していると感じている。

一方、感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症の影響も危惧されている。市長が訴えたかった思いと、玉井市政第1期目を振り返っての総括について問う。

答

市長職という重責を担うようになって以降、激化する都市間競争を勝ち抜くべく、リーダーとしての洞察力と判断力、そして決断力を求められていると強く意識しながら、政策課題と向き合ってきた。「足は現場に」との信念の下、より多くの市民と会いながら、貴重な意見や要望を聞かせていただいたことが糧になっている。市長としての最大の責務は、



市内各所で行われるタウンミーティング

公約実現への決意は？

問

市長は今期、第1期目同様、①市民役の西条の実現、②住みたい西条の実現、③夢が持てるまち西条の実現、④つながり広がる西条の実現、⑤市民と進める行政改革の実現、という5つの基本政策に基づく新たな施策16項目を公約として掲げており、本市の財産を次の世代に引き継ぎたいという、市長の熱い思いを強く感じる。本市の財政状況や、新型コロナウイルス感染症がまんえんしている現状で、持続可能なまちづくりに対する考えを踏まえつつ、市長がこの5つの公約に込めた決意について問う。